

第1章 各教科

第1節 国語

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

- (1) 学習指導要領・教育課程編成要領を踏まえて

本資料は、中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説、埼玉県中学校教育課程編成要領の趣旨及び内容を踏まえ、各学校における指導計画の作成や授業を展開する上での参考資料として作成したものである。各学校においては、生徒、学校及び地域社会の実態に即した指導計画の作成及び学習指導を展開する上で大いに活用されたい。

- (2) 国語科学習指導の充実を目指して

各学校においては、本資料を十分活用し、地域や学校、生徒の実態等に即し、創意工夫した指導計画を作成するとともに、改訂の趣旨を生かした国語科学習指導の充実を図られたい。

2 取り上げた内容

- (1) 本資料の構成

第2 指導計画作成のための資料	(2) 「B 書くこと」の指導例
1 学習指導要領及び教育課程編成要領を踏まえた指導計画の作成	(3) 「C 読むこと」の指導例
2 領域別の学習指導例	(4) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導例
(1) 「A 話すこと・聞くこと」の指導例	(5) 国語科における読書活動の充実を図る指導例

- (2) 概要と趣旨

ア 学習指導要領及び教育課程編成要領を踏まえた指導計画の作成

指導計画の作成については、中学校学習指導要領〈国語〉の目標の趣旨を踏まえ、指導計画を作成するための基本的な考え方と手順を示した。また、生徒に社会生活に必要な国語の能力の基礎を身に付けさせるため、学習活動（言語活動）と学習内容を明確にした学習指導案例を提示した。特に、「2 生徒の実態と本単元の意図」に、系統性を重視する視点から、「本単元に至るまでの指導の系統」を新たに設けた。

イ 領域別の学習指導例

ア 「A 話すこと・聞くこと」の指導例

第1学年の言語活動例イ「日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと」を踏まえ、小グループを活用した話し合いを取り上げた。自分の考えや感想を聞き手に分かりやすく伝え、また相手の考えや感想を聞き取り、話し合う能力の育成を目指した指導例である。特に、聞くことを重視して、視覚的なメモの取り方の例を示した。

イ 「B 書くこと」の指導例

第3学年の言語活動例ア「関心のある事柄について批評する文章を書くこと」を踏まえ、新聞社の社説担当者になり、社説を論理的に書き上げ、その社説をグループで読み、批評し合い、推敲することをねらいとした指導例である。

ウ 「C 読むこと」の指導例

第2学年の言語活動例イ「説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること」を踏まえ、複数の文章を比較して共通点を見つけ、今後の説明的文章の学習に応用できる力を育成することを目指した指導例と、第3学年の言語活動例ウ「自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること」を踏まえた、生徒に新しい読み方の視点を与え、進んで読書する態度を育成することを目指した指導例である。

エ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導例

第1学年の伝統的な言語文化に関する事項ア「古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること」を踏まえ、古典学習への意欲付けをねらいとした事例と、第2学年の書写に関する事項ア「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと」と「書くこと」の領域を関連させた言語活動の指導例を示した。

オ 「国語科における読書活動の充実」を図る指導例

「読むこと」の第1学年の言語活動例ウ「課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること」を踏まえ、自分が読んだ本の情報を整理した紹介文を作成し、それを活用しながら互いに紹介し合うブックトークを指導例として示した。

3 実践化への配慮事項

本資料の内容については、各学校における指導計画の作成及び実践上の参考とし、十分に研究・検討の上、生徒の実態等に即して活用されたい。その際、埼玉県中学校教育課程編成要領（国語編）を併せて活用されたい。

第2 指導計画作成のための資料

1 学習指導要領及び教育課程編成要領を踏まえた指導計画の作成

(1) 指導計画作成に当たっての基本的な考え方と手順

ア 指導計画作成に当たっての基本的な考え方

指導計画の作成に当たっては、国語科の目標及び改訂の趣旨を踏まえる必要がある。

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

中学校学習指導要領国語科は、言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて改訂された。特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視している。

イ 指導計画作成の手順

指導計画の作成に当たっては、各学校の実態に即した手順を考えることが大切である。ここでは、一般的な作成の手順を示す。

○事前の準備（指導計画作成のための事前の研究や調査）

○指導計画作成の手順

学習指導要領の国語科の目標及び内容、各学年の実態等を踏まえ、学校としての重点指導事項、各学年における重点指導事項を決定し、指導の系統表を作成する。



各領域の配当時数や内容配分に留意し、教科書との関連を図りながら、単元の数、種類、指導時数を決める。



単元の目標や指導の重点を明確にし、適切な話題・題材の選定、効果的な言語活動の組織化、道徳教育との関連などに配慮した上で単元を構成する。



生徒の発達の段階や学校行事、教科書単元の配列等を考慮して単元を配置する。

(2) 学習指導案作成上の配慮事項

学習指導要領に掲げられる確かな国語の能力を育成するためには、学校や生徒の実態を踏まえた上で、育成すべき国語の能力を明確にし、指導の系統性を重視した学習指導案を作成する必要がある。ここでは、学習指導案を作成する上での留意事項を具体的な学習指導案の形式に基づいて示す。

第1学年〇組 国語科学習指導案

1 単元名・教材名 私の主張

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【指導事項（書くこと）】	学 習 内 容	単元・教材名 〈実施時期〉	学習活動と関連する他領域等の指導
・調べた内容を分類・整理して、段落の役割を考えて文章を書くことができる。【1年 イ】	・調べた内容の分類整理の仕方 ・段落の役割	単元 「調べたことを報告し合おう」(1年9月)	【話すこと・聞くこと】 ○単元「自己紹介をしよう！」 ・必要な材料の収集、選択
・伝えたい事柄や自分の思いを明らかにした文章を書くことができる。【1年 ウ】	・伝えたい事柄 ・文章の形式（パンフレット、ポスター、手紙）	単元 「案内文を書こう」	【読むこと】 ○単元「自然はおもしろい」（説明文） ・文章の展開 問いの部分 — その答えの部分 世界やグラフの読み方

○指導の系統性を重視するため、本単元の指導と同じ「内容」（例 「課題設定や取材」）に関する「育成すべき国語の能力」「学習内容」を中心に記述する。

○2, 3年生の場合は、前学年の指導について記述することも考えられる。

(2) 生徒の実態と本単元の意図

- 生徒の実態把握に当たっては、日常的な学習状況の観察だけでなく、学力に関する各種調査結果の分析なども活用する。
- 基本的には「生徒観」「教材観」「指導観」にあたる内容を記述する。特に生徒観では、本単元と関わりのあることのみを記述する。

3 単元の目標

- (1) 身近な生活から必要な材料を集め、読みやすく組立ての整った文章を書こうとしている。 (関心・意欲・態度)
- (2) 必要な材料を収集・選択して、筋道立てて分かりやすい文章を書くことができる。 (書くこと)
- (3) 文と文の接続関係などを考えて書くことができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

○(2)の能力に応じて、(1)や(3)を設定する。特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、領域の指導を通して指導するものであるから、関連を密に図る必要がある。
○関心・意欲・態度は「～しようとしている。」、その他は「～できる。」と記述する。

4 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準

※()の部分はAの状況、他はBの状況を示す。

	ア 国語への関心・意欲・態度	ウ 書く能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・相手が読みやすいように、材料や組立てを考慮して文章を書こうとしている。	・自分の考えを主張するのに必要な材料を収集・選択している。 ・自分の考えが伝わるように、段落の役割を考慮して文章を構成している。	・文章中の段落の役割や文と文との接続関係などについて理解を深めている。
学習活動の評価規準	①相手意識を(明確に)持ち、材料を収集・選択しようとしている。 ②自分の主張を伝えるための文章を(積極的に)書こうとしている。	①自分の体験、材料を(効果的に)選びながら、文の組立てを(工夫して)作文メモにまとめている。 ②段落の役割を押さえ、自分の考えを(的確に)書き表している。	①段落と段落、文と文をつなぐ言葉を(効果的に)使っている。

○学習指導における評価に当たっては、目標(ねらい)として取り上げた観点についての指導を徹底する。そのため、他の観点については、評価対象としない。
(例)「B 書くこと」の学習指導であれば、「情報を収集するために図書室で本を読んだ」ことは「読む能力」の観点からは評価しない。

5 指導と評価の計画 (※P5、8、12、14、16、17の指導例を参照)

6 本時の学習指導(第1/4時)

- (1) 目標 ※「3 単元の目標」における留意事項を参照
- (2) 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫
1 学習の概要を知り、学習計画を確認する。 〔学習課題〕 「私の主張～みんなに聞いてほしいこと～」の作文メモを書こう!	○学習計画 ・作文を書く手順 ・題材、主張の決定	・本時の学習の見通しをもたせる。
2 作文メモを書く。 (1) 自分の主張を明確にするための具体例を探す。 (2) 主張を明確にするための効果的な書き方を学ぶ。	○効果的な書き方 ・適切な材料選び ・文章の組立て→ 序論—本論—結論 序論 (例)「K中に来て、飼育小屋がないことにおどろいた」 本論(具体的事例・考察) (例)「なごめる場ができる」 (例)「動物を大切にしたい心」 結論(主張) (例)「K中に飼育小屋を作りたい」	○評価場面の設定は、1単位時間内に1～2場面が適当である。 ○評価を行う場面や方法を明確にするとともに、A・B・Cの評価に応じた、具体的な指導の手立てを講じる必要がある。 評価場面1 〈具体の評価規準〉 アの① ウの① 〈評価方法〉 ・机間指導による観察 ・ノート、作文メモによる考察 〈手立て〉 ・必要に応じて個々にヒントカードを渡し、個別指導の効率化を図る。 ・評価Aに達した生徒には、文章の組立て方について、異なる視点を与え、取り組ませる。

○学習活動を通して身に付けさせたい内容を明確にする。
○書かせたい(答えさせたい)内容や押さえさせたい教科書等の表現などを(例)のように具体的に示す。

(3) 板書計画

○実際の授業と同じように示す。こうすることで授業者自身が授業をイメージしやすくなる。

2 領域別の学習指導例

(1) 「A 話すこと・聞くこと」の指導例

○日常生活の中の話題について対話や討論などを行うことの指導例（第1学年 A 話すこと・聞くこと 言語活動例イ）

1 単元名・教材名 「ことば」について考える

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【指導事項(話すこと・聞くこと)】	学 習 内 容	単元・教材名 <実施時期>	学習活動と関連する他領域等の指導
・話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめることができる。 【1年 オ】	・話題や方向性のとらえ方 ・自分の考えとの比較の仕方 ・「聞き取りメモ」の書き方	単元 「対話で学び合う」 (1年5月)	【読むこと】 ○「新聞の投書を読む」 ・投書の要点 ・メモの取り方 ・「何がどうした」「何をどうしたい」の集約

(2) 生徒の実態と本単元の意図

本学級の生徒は、4月に実施した「国語に関する調査」の結果を分析すると、自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話したり、話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ったりすることに課題があることが分かった。特に、聞くことに関しては、学年平均の通過率が73%に対して、68%という結果である。

本単元では、話合い活動の過程で、特に「聞くこと」に重点をおいた指導を行う。話合いは五人組のグループで行い、聞く力を育成する観点から、司会者の他にも記録者を設定し、記録者には「聞き取りメモ」(※資料2)を作成させる。その「聞き取りメモ」により、発言の内容等を構図化することで、話題や方向を的確にとらえた話合いができたか、学習内容を振り返ることもできる。

指導に当たっては、話題について特に配慮した。生徒にとって身近な「ことば」をテーマとし、具体的には「絵文字を作文に使ってよい」「手紙は手書きがよい」など五つを用意する。各グループは、司会者や記録者などの役割をかえながら、五つの話題について順次話し合えるようにする。「ことば」について自分たちの考えを方向付け、まとめるという活動を通じて、話合いをまとめる力の育成も図っていきたいと考える。

3 単元の目標

(1) 「聞き取りメモ」をもとに話題や方向を的確にとらえた話合いができたかを意欲的に振り返ろうとしている。

(関心・意欲・態度)

(2) 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりすることができる。

(話すこと・聞くこと)

(3) 自分の意見や考えが相手に分かりやすく伝わるように、適切な話し方や語句の選択をすることができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準

※ () の部分はAの状況、他はBの状況を示す。

	ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の 評価規準	・話題や方向を的確にとらえた話合いができたかを目的をもって振り返ろうとしている。	・話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞き、「聞き取りメモ」を作成したりしている。	・自分の意見や考えが相手に分かりやすく伝わるように、適切な話し方や語句の選択をしている。
学習活動における 具体的評価規準	①「ことば」をテーマとした話合い活動に、(意欲的に)参加しようとしている。 ②「聞き取りメモ」をもとに、(意欲的に)自分たちの話合い活動について振り返ろうとしている。	①話合いの話題や方向をとらえて(的確に)話したり、相手の発言を注意して聞いたりしている。 ②自分の考えとの共通点や相違点を(正確に)整理しながら聞き取っている。 ③発言等を(正確に聞き取り)「聞き取りメモ」に記し、話合いの内容について構図的にとらえている。	①自分の意見や考えが相手に分かりやすく伝わるように(適切な)語句を選択している。 ②話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方に気を付けて(相手に分かりやすく伝わるように)話をしている。

5 指導と評価の計画（全4時間）

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいをつかみ、学習計画を確認する。 ○話し合いに向けて、話題ごとに自分の考えを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「聞き取りメモ」の意義 ○「ことば」をテーマとした話し合い〈五つの話題と予想される生徒の考え〉 	アの① オの① ・机間指導による観察 ・整理プリントの内容の考察
	<ul style="list-style-type: none"> ① 話題1 「絵文字を作文に使ってよい」 <ul style="list-style-type: none"> ・絵文字は自分の思いや感情をうまく表すものであるから、必要最小限で使ってもよい。 ・自分の思いや感情をことばで表現することに意味がある。あくまでもことばで表現するべきだ。 ② 話題2 「手紙は手書きがよい」 <ul style="list-style-type: none"> ・手書きで書かれた手紙の方が気持ちが伝わる。 ・パソコンが普及しており、ワープロの文字の方が読みやすい。 ③ 話題3 「省略する言葉はあまり使わない方がよい」 <ul style="list-style-type: none"> ・「国連」などの省略する言葉は一般的に使われており、便利である。 ・「KY」など、一時流行したものは遊び感覚で、一部の人にしか分からない言葉である。 ④ 話題4 「国語のノートは横書きではいけない」 <ul style="list-style-type: none"> ・本来、縦書きで書くものだから、縦書きでなくてはいけない。字の流れなど横書きでは表せない。 ・レポートなどは横書きなのだから、必要に応じて横書きでもよいと思う。 ⑤ 話題5 「敬語を学ぶのは早ければ早いほどよい」 <ul style="list-style-type: none"> ・敬語は社会に出て必要なものだから、小学生の時から繰り返し学習して身に付けるべきだ。 ・ことばのきまりなど、ある程度学習してからでないと同違った敬語を覚えてしまうのではないか。 		
2 (本時) ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの仕方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合う順序を確認する。 ・意見を出し合う方法と整理の仕方を確認する。 ・「聞き取りメモ」の取り方を確認する。 ○「ことば」をテーマとした話し合い(討議)をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 話題1→話題2→話題3→ 話題4→話題5 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの進め方 ・役割分担(司会・記録) ・聞き取りメモの取り方 ○「ことば」をテーマとした話し合い <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの話題や方向 ・自分の考えとの共通点や相違点 	アの① イの①② オの② ・机間指導による観察 ・「聞き取りメモ」の内容の考察 ・ビデオ内容の考察
4	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いを終えて、「ことば」について考えたことをまとめる。 ○「聞き取りメモ」をもとに、自分たちの話し合い活動について振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ことば」に対する自分の考え ○「聞き取りメモ」 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの話題や方向 ・発言の要点 	アの② イの③ オの① ・机間指導による観察 ・振り返りシートの考察

6 本時の学習指導（第2／4時）

(1) 目標

- ・「ことば」をテーマとした話し合い活動に意欲的に参加しようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりすることができる。(話すこと・聞くこと)
- ・自分の意見や考えが相手に分かりやすく伝わるように適切な語句を選択することができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

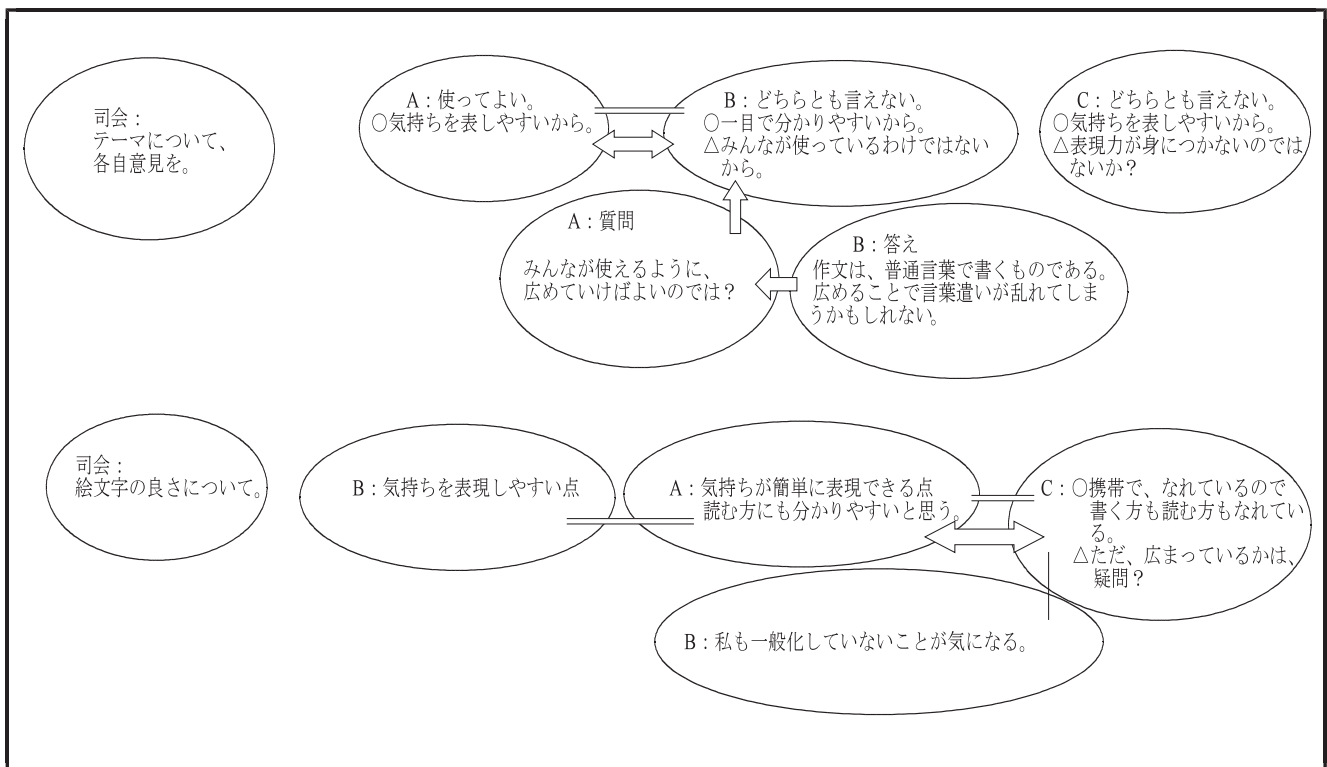
(2) 展開

学 習 活 動	学 習 内 容	指 導 と 評 価 の 創 意 工 夫
1 本時の課題を知る。		・本時の課題を提示して意欲を高める。
[学習課題]「ことば」をテーマとした話し合いをしよう。		
2 話し合いの仕方を確認する。	○話し合いの仕方 ・話し合いの進め方 ※資料1 ・役割分担 (司会・記録) ・意見の要約	・グループは五人組とし、あらかじめ編制しておく。 ・話題ごとに役割を替え、全員が司会や記録の役割を経験するようにする。 ・「聞き取りメモ」の取り方については単元「対話で学び合う」で学習した内容を確認する。
〈聞き取りメモの取り方〉 ※資料2 ①意見は○で囲む。 ②同じ意見は = で結ぶ。 ③付け足しは - で結ぶ。 ④質問は ⇨と⇩ で結ぶ。 ⑤反対意見は ⇨⇩ で結ぶ。		
3 「ことば」をテーマとした話し合いをする。 (1) 話題1「絵文字を作文に使ってよい」 (2) 話題2「手紙は手書きがよい」	○「ことば」をテーマとした話し合い ・話し合いの話題や方向 ・自分の考えとの共通点や相違点	・話題1、2はそれぞれ15分間とする。
4 本時のまとめをする。	○「聞き取りメモ」の考察	〔評価場面〕 〈具体の評価規準〉アの① イの①② オの② 〈評価方法〉・観察 ・聞き取りメモ 〈手立て〉・話題に即した補助資料を用意する。 ・必要に応じて教師が司会を補助する。

※資料1 【話し合いの進め方の例】

司会者：「今から、『絵文字を作文に使ってよい』という話題で話し合いを行います。まず、◇◇さんから、発言してください。」
 発言者：「わたしは、～に○○です。理由は△△だからです。確かに、～です。しかし～だからです。」
 司会者：「今の意見をまとめると、□□という理由で、○○だということですね。」
 「このことについて、どう思いますか。」
 発言者：「先ほどの△△と行った点に◆◆があります。なぜなら、～ だからです。」
 司会者：「今の意見についてどう思いますか。」
 発言者：「～ と行った点には同感です。」

※資料2 【聞き取りメモの例】



(2) 「B 書くこと」の指導例

○関心のある事柄について批評する文章を書くことの指導例（第3学年 B書くこと 言語活動例ア）

1 単元名・教材名 「わたしの社説」を書こう

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【指導事項（書くこと）】	学 習 内 容	単元・教材名 〈実施時期〉	学習活動と関連する他領域等の指導
・調べた内容を整理し構成を考え、相手を意識した文章を書くことができる。【1年イウ】	・集めた材料の分類・整理の方法 ・相手を意識した書き方	単元「相手や目的を意識して書こう」 〈1年・6月〉	【話すこと・聞くこと】 ○単元「相手を意識して話そう」 ・説得力のある話の工夫 【読むこと】 ○単元「論理の展開をとらえよう」 ・論理の展開の仕方の把握 ・構成や展開、表現の仕方についての評価
・自分の立場を明確にし、事実や事柄、意見が相手に効果的に伝わるように、文章を書くことができる。【2年イウ】	・自分の立場や伝えたい事実や事柄 ・効果的な描写の工夫の方法・推敲の仕方	単元「根拠を明確にして書こう」 〈2年・12月〉	

(2) 生徒の実態と本単元の意図

学習状況の調査や授業からとらえられる生徒の課題は、自分の意見が相手に的確に伝わるように適切な材料を根拠とし、自分とは異なる立場の意見も取り入れながら書くことである。

そこで、本単元では、自分が新聞社の社説の執筆者や論説委員となり、「○○新聞社の社説＝わたしの社説」を書き上げていく。「社説」を書くにあたっては、明確な立場や読者を納得させる論理・材料・事例、そして一読しただけで主張が分かる見出しが必要である。また、自分の主張ばかり押し通すのではなく、自分と異なる意見や改善すべき点などを多面的に考えて書かなくてはならず、そのことにより、より共感を得られる論理に練り上げていくことができる。学習指導要領解説国語編第3章各学年の目標と内容の中の第3学年「B書くこと」には、「批評とは、対象とする事柄について、そのものよさや特性、価値などについて、論じたり、評価したりすること」とある。「わたしの社説」の批評においても、物事のマイナス面ばかりをとらえるのではなく、よさや価値を論じる中で、改善点やもっとこうしたらよくなるという面に目を向けさせていきたいと考える。

指導に当たっては、「わたしの社説」の「読者」として、同じ3学年の別のクラスの生徒を対象に設定した。クラスごとに「社説集」としてまとめ、別のクラスの生徒に読んでもらうのである。ここまで3年間生活をともにしてきた仲間であるからこそ、読者に寄り添った論が展開できるであろうし、まさに読み手の実態、興味・関心を意識した、書き手の視野の広さや論理的な思考力が必要とされると考える。

3 単元の目標

- (1) 読者を意識し、適切な課題を選び、説得力のある「わたしの社説」を書こうとしている。（関心・意欲・態度）
- (2) 社会生活の中から課題を選び、資料をもとに考えを深め、社説としてふさわしい論理的な文章を書くことができる。（書くこと）
- (3) 文章の論理的な構成について理解し、適切な語句を用い、効果的に文字を整えて書くことができる。

（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

4 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準

※（ ）の部分はAの状況、他はBの状況を示す

	ア 国語への関心・意欲・態度	ウ 書く能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・伝える相手や目的を意識し、論理的で説得力のある文章を書き表そうとしている。	・社会生活の中から適切な課題を決め、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用しながら説得力のある文章を書いている。 ・互いの文章を読み合い、論理の展開の仕方などについて評価し、論理的な社説にしようとして推敲している。	・文章の論理的な構成について理解し、適切な語句を用いて文章を書いている。 ・字形を整え、配置などに注意して効果的に社説を書いている。[書写]
学習器具	①伝える相手や書く目的を意識して（積極的に）社説を書こうとしている。	①社会生活の中から適切な課題を決め、取材を繰り返しながら（論理の展開を工夫し）自分の考えを深めている。	①文章の論理的な構成について理解し、自分の社説に（ふさわしい）適切な語句を用いて文章を書いている。

<p>体動 のにお 評価規 準</p>	<p>②論理的で説得力のある社説を（意欲的に）書こうとしている。</p> <p>③社説をよりよいものにするために（積極的に）書いた文章を読み返し、整えようとしている。</p>	<p>②社説の書き出しや全体の構成、（まとめを工夫し）論理的で筋道の通った説得力のある文章を書いている。</p> <p>③構成メモや文章を読み直し、相互評価や助言なども参考にしながら（自分の表現に役立て）推敲している。</p>	<p>②原稿用紙に、字形を整え、配置などに注意しながら（工夫し）効果的に社説を書いている。</p>
---------------------------------	---	---	---

5 指導と評価の計画（全6時間）

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1 2	<p>○学習の概要を知り、学習計画を確認する。</p> <p>○社説について理解する。</p> <p>○「わたしの社説」の取材をする。</p> <p>○社説の読者（別のクラスの中学3年生）を意識した書き方</p> <p>○取り上げる課題についての取材の方法（新聞〈記事・社説・投書等〉・雑誌・テレビ・ラジオ・インターネット等）</p>	<p>○学習計画</p> <p>○社説の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社説の意味・具体的な例 ・数社の社説の比べ読み ・社説を書く目的・手順 	<p>アの① ウの①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 ・構成メモの記述内容の考察 ・自己評価の内容の考察 <p>※課題を決めるのが難しいと思われる生徒には、課題の例や資料を提示し、事前に指導しておくようにする。</p>
3	<p>○「わたしの社説」で取り上げる課題を決定し、もとなる構成メモを作る。</p>	<p>○構成メモの視点</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自分が取り上げる課題 ②集める資料 ・様々なメディアの記事・資料 ・その他に集めた資料 ③自分の意見 ・課題に対する結論 ・結論の理由 ・特に訴えたいこと ④自分と異なる意見 ・自分の結論とは異なる意見 ・もっと改善できる点 ⑤見出し ・自分の意見を最もよく表し、読者を引きつける見出し <p>※課題の例「オリンピックの正式種目に野球を復活させるべきだ」「言葉だけのエコはもうやめよう」「本は心の友だち」「インフルエンザ対策を急げ」</p>	<p>アの①② ウの① オの①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 ・構成メモの記述内容の考察
4	<p>○構成メモをもとに、社説の下書きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原稿用紙に下書きをする。（600～800字程度） <p>○「わたしの社説」の基本的な文章構成</p> <p>〈序論〉問題提起をする段落。テーマを選んだ理由、現状や取り巻く環境などを具体的に投げかける。</p> <p>〈本論①〉自分の意見を提示し、詳しく述べる段落。集めた資料をもとに説得力のある論を展開する。</p> <p>〈本論②〉自分と異なる意見を取り上げる段落。改善をすればよさや価値が高まる面について述べる。</p> <p>〈まとめ〉「わたしの社説」のまとめをする段落。読者を意識し、再度主張をアピールして締めくくる。</p>	<p>○社説の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成メモを踏まえた内容 ・伝えたい内容を明確にすること ・論理的に伝えるための、見出し、文章構成の工夫 	<p>アの①② ウの①② オの①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 ・下書きの内容の考察 ・自己評価の内容の考察
5 (本時)	<p>○互いの社説の下書きを読み合い、より論理的で説得力のある表現に高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの相互評価をもとに、自分の社説を推敲する。 	<p>○論理的で説得力のある構成と表現の工夫</p> <p>○相互評価の観点(1)～(4)</p> <p>※本時の学習指導参照</p> <p>○推敲の方法</p>	<p>アの②③ ウの②③ オの①②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 ・評価シートの内容の考察 ・自己評価の内容の考察
6	<p>○社説の清書をする。</p> <p>○完成した作品を読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互評価をする。 <p>○「社説集」を作成する。</p>	<p>○読み手を意識した丁寧な記述</p> <p>○他人の作品のよい点の評価</p>	<p>アの②③ ウの③ オの②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成作品の内容の考察 ・自己評価の内容の考察 ・自己評価カード

6 本時の学習指導（第5／6時）

(1) 目標

- ・読者を意識し、より論理的な文章に高め、説得力のある社説を書こうとしている。（関心・意欲・態度）
- ・互いの社説を読み合い、評価シートによる相互評価をし、それをもとに自分の社説を推敲することができる。（書くこと）
- ・社説として適切な語句を用いて文章を書くことができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

(2) 展開

学 習 活 動	学 習 内 容	指導と評価の創意工夫
1 本時の課題を知る。		・本時の課題を掲示して意欲を高める。
	〔学習課題〕 互いの「わたしの社説」を評価し合い、推敲しよう。	
2 社説の下書きをグループ内で読み合い、相互評価をする。 (1) 評価シートによる相互評価を行う。評価シートによってチェックし、グループ内で回し読みをする。 (2) シート記入後、意見交換をする。	○論理的で説得力のある構成と表現の工夫 ○相互評価の観点 (1) 自分の意見をよく表し読者を引きつける見出しになっているか。 (2) 社説の文章構成の条件にあっているか。 ※「わたしの社説」の基本的な文章構成 〈序論・本論①・本論②・まとめ〉 (3) より論理的な展開、説得力のある表現に書き直せるところはないか。 (4) 自分の社説に役立てられる表現や展開はないか。	・グループは四人一組（あるいは三人一組）とし、同じような課題を取り上げた者同士で編制する。 ・よいところをたくさん見つけること、効果的なアドバイスをすることを心がけさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価場面 1</p> <p>〈具体の評価規準〉</p> <p>アの③ ウの③ オの①</p> <p>〈評価方法〉・机間指導による観察</p> <p>・評価シートの内容の考察</p> <p>〈手立て〉・「相互評価の例」を手渡し、評価の観点を明確にさせる。</p> </div> <p>・シート記入後の意見交換で、さらに相互評価の効果を高めたい。</p>
<p>〈相互評価の例〉</p> <p>観点(1)の評価例・見出し「成人年齢の見直しについて」→この見出しでは自分の意見が分からない。 推敲後→「成人は二十歳のままで」</p> <p>観点(2)の評価例・文章構成 文章構成において本論①と本論②がほとんど同じ内容になっている。 推敲後→本論②は自分と異なる立場を書く。反対意見やその対策、改善点について書く。</p> <p>観点(3)の評価例・表現「この制度には反対だとみんなが言っている。」→「みんな」では誰のことか分からない。 推敲後→「クラスへのアンケートでは、九割以上の人が反対だという結果が得られた。」</p> <p>・論の展開「新聞には『一新聞の抜粋』という意見が載っている。私も賛成だ。」 →意見が新聞の受け売りで終わっていて、自分の具体的な意見がない。 推敲後→「～という意見が載っている。私も○○の点で賛成である。また、□□という面からも積極的に取り入れられるべきだと思う。」</p> <p>・説得力「これに対して反対意見もあると思う。でも、だめなものはだめなのだ。誰がなんと言ってもこれだけは譲れない。」→ただ「だめ」と言うだけで説得力がない。 推敲後→「～反対意見もあると思う。しかし、○○の立場から考えると必要性が分かってくるだろう。先日の新聞の世論調査でも、□□という結果が出ている。さらに△△という改善を加えていくことで、より効果が上がるのではないだろうか。」</p>		

観点(4)の評価例・**表現の工夫** 考えを述べるための表現の工夫について、自分の表現に役立てる。

- ・四字熟語を使う。「言語道断」「本末転倒」「温故知新」「五里霧中」「四面楚歌」「朝令暮改」
- ・社説にふさわしい文末表現を工夫する。
 - 〈主張型〉「明らかである」「確実である」「間違いない」「べきである」「でなければならない」
 - 〈推測型〉「と考えられる」「と予想される」「と見られる」「可能性がある」

- 3 評価シートをもとに自分の社説を推敲する。
- 4 推敲した社説をもう一度個人やグループ内で読み、確認する。
- 5 自己評価をし、本時の学習のまとめと次時の予告をする。

- 推敲時の留意点
- ・グループからの評価をもとにした推敲
 - ・見出しの付け方や社説の内容、展開などについて自分の表現に役立てること
 - ・推敲した文章を確認すること
- ・評価シートを使い、効率的に進めさせる。
- ・場合によっては構成メモにもう一度立ち返らせ、自分の伝えたいことを整理させる。
- ・読者である中学三年生を意識させ、グループからの評価を効果的に反映させる。
- ・自己評価カード

評価場面 2

〈具体の評価規準〉

アの②③ ウの②③ オの①

〈評価方法〉

- ・机間指導による観察・推敲の観察

〈手立て〉

- ・構成メモ、評価シートをもとに支援する。

〈生徒の作文例〉

○新聞社説

裁判員制度を定着させるべきだ

今年から裁判員制度がスタートした。これは、一般の人が裁判員として刑事裁判に参加して、被告人が有罪かどうか、有罪の場合どのような刑にするかを裁判官と一緒に決めていく制度だ。東京地裁の一例目に続き、さいたま地裁でも二例目が行われた。テレビ、新聞、インターネット等のメディアでも大々的に取り上げられ、社会的な関心も高い。

私は、この裁判員制度をもっと定着させていくべきだと考える。なぜなら、裁判が身近で分かりやすいものとなり、犯罪や裁判への関心が高まり、犯罪が減り、安全な日本を築いていけると思うからだ。二例目のさいたま地裁の裁判に裁判員として参加した女性が、「参加したことによって裁判への興味もわいたし、周りの人や子どもなどに自分の経験を伝えていきたいと思った。直すところはあるにしろ、形としてあってもよい。」と言っている。これは裁判員制度のもたらしたプラスの結果である。制度を定着させていくことにより、こう考える人が確実に増えるだろう。

しかしながら、「裁判員への負担」「プライバシーの保護」「プレゼン能力の影響」などの問題が数多くあるのも事実である。裁判は裁判所に任せておけばよいという意見もあるだろう。私の父なども、「裁判員は面倒だからなりたくない」と言っている。だが、本当にそれでよいのだろうか。私は裁判員から逃げているは、日本はもっと悪くなり、犯罪社会になってしまおうと思う。せつかく始まった制度、改良を重ねながら日本に定着させるべきだ。

日本をよりよい社会にするためにも、裁判員制度は必要である。そしてもっと定着させていかなければならない。私は将来、自分が裁判員に選ばれたとしたら、喜んで参加するつもりである。

(3) 「C 読むこと」の指導例

○説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べることの指導例

(第2学年 C 読むこと 言語活動例イ)

1 単元名・教材名 「筆者の意図をとらえる —説明文の読み比べから—」

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【指導事項 (読むこと)】	学 習 内 容	単元・教材名 (実施時期)	学習指導と関連する他領域等の指導
・文章中の抽象的な語句の意味をとらえ、筆者の考えを理解することができる。【1年イ】	・主張の内容による段落構成の種類(頭括、尾括、双括) ・三段構成(序論・本論・結論) ・主張の押さえ方	「クジラたちの声」 〈1年・6月〉	【話すこと・聞くこと】 ○3分間スピーチ ・効果的な構成
・文章の中心部分と付加部分、事実と意見を読み分けることができる。【1年イ】	・詳しくする語(具体)とまとめる語(抽象)の関係 ・段落の要点のとらえ方 ・事実と意見の読み分け ・例示の仕方とその効果 ・主張と根拠の関係	「未来を開く微生物」 〈1年・10月〉	【書くこと】 ○分かりやすく伝えよう ・事実と意見の書き分け ・効果的な主張の述べ方

(2) 生徒の実態と本単元の意図

説明的文章の多くは、文章の中心部分と付加部分、事実と意見という観点から整理することができる。筆者の伝えたいことや主張をとらえること、主張の根拠となる部分や具体例を押さえること、これらは説明的文章の学習内容として重要である。しかし、本学級の生徒の中には、これらを文章中の表現でとらえきれない者も見受けられる。

中学1年生の説明的文章の学習では、文章の中心部分と付加部分、事実と意見の読み分けの学習を行うにあたり、「具体」と「抽象」の関係についての学習を行った。まずは、単語レベルの「犬」「猫」「鳥」という具体的な名詞を「動物」ととらえるところから始めた。その後、具体と抽象の置き換えの練習を繰り返す中で、最終的には、簡潔な文章の中心部分と付加部分、事実と意見の読み分けを理解することができた。

本単元では、この学習を踏まえ、複数の文章を読み比べることで、上述の説明的文章の学習内容を一般化し、今後の説明的文章の学習に応用できる力を付けていきたいと考えた。指導に当たっては、複数の説明的文章を比較するのは今回が初めてであるため、生徒にとって内容を理解しやすく、比較しやすいよう、簡潔で平易な文章を扱った。教材は『サングの海の生きものたち』(本川達夫)『雪国は今』(鈴木哲)の二つであり、両教材とも小学校の教科書教材として扱われたものである。これらについて、筆者の意見の述べ方、中心部分と付加部分の関係、例示の仕方など、いくつかの視点を与え、比較・検証させ、表現の仕方の共通点や相違点を整理し、そこから筆者の意図に迫れるような学習をしていきたい。

3 単元の目標

- (1) 複数の文章の表現や論の展開の仕方に関心をもち、積極的に文章を読み比べている。(関心・意欲・態度)
- (2) 複数の文章を比較しながら読み、構成や展開、表現の仕方の共通性について理解することができる。(読むこと)
- (3) 文の成分の順序や照応、文の構成などについて理解することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準 ※単元の評価規準は略 ※()の部分はAの状況、他はBの状況を示す。

ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
①筆者の論の展開に関心をもって(積極的に)文章を読もうとしている。 ②文章の特徴に目を向け、(進んで)比較・考察をしようとしている。	①説明文の中心部分と付加部分の特徴(や例示、描写の効果)について理解している。 ②複数の文章を比較して読み、論の展開の(表現の仕方の)共通点について理解している。	①文の成分の順序や照応、文の構成など(により表現がどのように変わるか)について理解している。

5 指導と評価の計画 (全2時間)

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	○既習の説明文の中心部分と付加部分について整理する。	○中心部分……筆者の主張 抽象化、一般化された表現 ○付加部分……中心部分の補足、具体例、例示	アの① エの① オの① ・課題への取組の様子や態度の観察
2 (本時)	○複数の文章を比較して読み、共通点について考える。 ○比較から分かった共通点を報告する。	○観点に基づいた文章の比較方法 ・筆者の主張のとらえ方 ・主張の例示の仕方 ・中心部分と付加部分の関係	アの② エの①② オの① ・課題への取組の様子や態度の観察 ・ワークシートの内容の考察

6 本時の学習指導 (第2 / 2時)

- (1) 目標 ※「読むこと」以外は略
・複数の文章を比較して読み、論の展開や説明の仕方の共通性について理解することができる。 (読むこと)
- (2) 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫
1 前時の復習を行う。 【全体】	○説明文の中心部分と付加部分 ○筆者の主張と例示の関係 (具体と抽象の関係)	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物を利用し、簡潔に短時間で復習ができるよう配慮しながら進める。 ・今回は共通点を中心に押さえるが、時間に余裕があるグループは相違点についても考えさせる。 ・ワークシートを活用し、比較の観点の焦点化を図る。 ・考察結果から一般化を示唆し、他の文章への応用を促す。
2 本時の学習のめあてをつかむ。 【全体】	○複数の文章を比較して読み、共通点を見つけよう。	
3 文章の比較の観点について考える。 【全体】	○文章の比較の観点についての理解 ・筆者の主張 ・主張の例示の仕方 ・中心部分と付加部分の関係 ・問題提起 ・文章構成	
4 グループごとに 文章の比較・考察を行う。 【グループ】		
<p>＜押さえる表現 (例)＞</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>『サンゴの海の生きものたち』 「イソギンチャクの中に入れば、クマノミはあぜんです。」 (付加部分・具体例) 「このように、サンゴのうつくしい海では、たくさんの生きものたちが、<u>さまざまにかかわり合っ</u>てくらしています。」 (中心部分・まとめ)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>『雪国は今』 「雪のせいしつを利用して、食料を雪の中に貯蔵するということです。」(付加部分・具体例) 「雪をじゃまものと考えて取りのぞくだけでなく、<u>雪のせいしつを</u>進んで生かそうという、<u>人々のたえ間ない努力と協力の積み重ね</u>で……。」(中心部分・まとめ)</p> </div> </div>		
<p>＜課題の答え＞</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張は最後に来ることが多く、それが文章全体のまとめになっている。 ・主張の内容は、具体的な事実や日常生活の経験などによって具体化されている。 ・中心部分は筆者の意見や事柄を抽象的にとらえたものが多く、付加部分は例示や中心部分を言いかえた内容が書かれている。 ・問題提起や話題提示が文章の前半に書かれ、そのことを説明するかたちで文章が展開されている。 </div> <p>○他者の考察結果の比較とその活用の仕方</p>		
5 考察結果を報告する。 【全体】	○説明的文章に共通する特徴	<p style="text-align: center;">評価場面1</p> <p>＜具体の評価規準＞ アの② エの①② オの① ＜評価方法＞ ・課題への取組の様子を観察 ・ワークシートの内容を観察 ・発表時の発表内容を観察 ＜手立て＞ ・前時までの既習事項が今回提示する文章に合致するかを検討させる。</p>
6 本時のまとめを行う。 【個人】	○日常生活への文章や話し方への発展性	

○自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えることの指導例（第3学年 C 読むこと 言語活動例ウ）

1 単元名・教材名 ファンタジーの世界で

2 生徒の実態と本単元の意図

（本単元に至るまでの指導の系統については略）

本単元では、作品中の表現をじっくり味わったり、作品に見られる作者の構想や伏線が表れている言葉に気付き、その後の展開を予想したりしながら読み進める学習を設定する。そのような学習を通して、生徒に新たな読み方の視点を与え、読書に関する興味・関心を高め、進んで読書する態度を育成していきたい。

指導に当たっては、教材として、別役実の『空中ブランコ乗りのキキ』を扱う。本作品はファンタジー小説として、生徒たちの興味を抱きやすい作品である。また、表現が平易であり、結末の伏線となる表現が随所に見られる。文章中の言葉に着目して、その後の展開を予想していくのにふさわしい作品である。この作品を通して読書の新たな楽しみを伝え、生徒の読みの世界を広げていきたいと考える。（以下略）

3 単元の目標

- (1) 積極的に文章を読み、文章中の情景や心情を描き出す言葉を探そうとしている。 （関心・意欲・態度）
- (2) 文章中の描写が表す情景や心情を読み取り、その後の展開を予想させる言葉を押さえて読むことができる。 （読むこと）
- (3) 文章中の多義語や慣用表現、比喻表現に注目し、文脈を踏まえてそれらの意味を理解することができる。 （伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

4 本時の学習指導（第2／3時）

- (1) 目標 ※「読むこと」以外は略
 - ・作品の展開を予想させる言葉を押さえ、結末を予想することができる。 （読むこと）
- (2) 展開

学 習 活 動	学 習 内 容	指 導 と 評 価 の 創 意 工 夫
1 学習のめあてをつかむ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> [学習課題]『キキは物語の最後にどうなってしまったのか。』 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材は結末部分を除いた形で提示する。 ・予想した結末部の根拠となる表現を指摘させ、表現に注目した読み方を意識させる。
2 結末部分について考える。	<p>○「空中ブランコ乗りのキキ」の結末部分の予想</p> <p>○文章中の表現に注目した予想の根拠</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <予想される反応> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・キキは四回宙返りを成功させる。 ・四回宙返りに失敗し、キキはケガをしよう。 ・四回宙返りは成功するが、その後、キキは死んでしまう。 ・キキは四回宙返りに成功して、鳥になってしまう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <押さえる表現> </div> <p>○鳥になったことを予想させる表現 「まるで、鳥みたいじゃないか。」「鳥でもない限り四回宙返りなんて無理なんです。」「四回宙返りなんて無理さ。人間にできることじゃないよ。」「飛びながら自分でもまるで鳥みたいだと思ってくらいなんですからね。」</p> <p>○キキの死を予想させる表現 「人気なんて落ちたって死にやしない。ブランコから落ちたら死ぬんだよ。」「お客さんに拍手してもらえないくらいなら、私は死んだほうがいい……。」「おまえさんは、お客さんから大きな拍手をもらいたいという、ただそれだけのために死ぬのかね。」</p> <p>◇押さえ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の台詞に注目させる。 ・繰り返し出てくる表現に注目させる。（「鳥」「死」） ・情景描写に注目させ、そこから登場人物の心情を押さえさせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 評価場面1 </div> <p><具体的評価規準>（略）</p> <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導によるノートの観察 ・発表内容の確認 <p><手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の予想した結末が文章中のどこから分かるかを指摘させる。
3 結末部分を読む。	<p>○作者の構想と、自分の予想及び根拠との比較</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <課題の答え> </div> <p>でもその時、だれも気づかなかったのですが、キキはもうどこにもいなかったのです。……（中略）……翌朝、サーカスの大テントのてっぺんに白い大きな鳥が止まっていて、悲しそうに鳴きながら、海の方へ飛んで行ったと言います。もしかしたらそれがキキだったのかもしれないと、町の人々はうわさしておりました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・押さえる表現に基づいた生徒の自由な結末の予想を大事にする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 評価場面2 </div> <p><具体的評価規準>（略）</p> <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表場面の観察 ・ノートの観察 <p><手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・結末と自分の予想との共通点と相違点を押さえさせ、その結果について考えたことをまとめさせる。
4 本時のまとめを行う。	<p>○表現に注目して読み進める楽しさ</p> <p>○作者の構想とそれに関わる表現の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・結末の予想の結果だけでなく、作者の構想や表現の工夫に目を向けさせる。

(4) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導例

○古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れることの指導例（第1学年）

1 単元名・教材名 古典のとびら（文語詩）

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【指導事項 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)】	学習内容	単元・教材名 (実施時期)	学習活動と関連する他領域等の指導
・古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読することができる。 【1年ア(ア)】	・文語のきまり	・「古文を音読しよう(俳句・短歌・竹取物語)」 〈小学6年〉	【書くこと】 ○「古文を音読しよう」 ・リズム ・言葉の意味 ・歴史的背景 ※音読する古文のよさを伝える紹介文を書くという学習活動を行う。

(2) 生徒の実態と本単元の意図

本学級の生徒にとって、中学校に入学してから初めての古典であり、事前調査では古典学習への期待度が95%で、関心が高い。知っている古典作品の知識も神話、民話、和歌、俳句など多種多様である。

これからの古典の学習に向けては、古文を音読するために必要な「文語のきまり」について指導し、確実に身に付けさせる必要がある。本単元では、古典学習への意欲付けとして、歴史的仮名遣いなど口語と異なる古文特有のきまりに注意しながら本文を読ませ、文語詩のもつ独特のリズムや優れた表現を読み味わわせたい。

指導に当たっては、音読を通して、リズムの共通点や五音、七音の繰り返し、現代と共通の言葉などについて気付かせ、今後出会う古典作品の学習に発展させることに配慮する。

3 単元の目標

(1) 古文に対する興味・関心をもち、文語詩のリズムを意識しながら読もうとしている。(関心・意欲・態度)

(2) 文語詩を比較して読み、文語のきまり等についての共通点をとらえることができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 本単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準

※()の部分はAの状況、他はBの状況を示す

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・古文に対する興味・関心をもち、古典のリズムを意識しながら読もうとしている。	・文語詩を比較しながら読み、共通点について考えている。	・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、文語調のリズムを感じながら音読している。
学習活動における具体的評価規準	①(意欲的に)文語詩を読み、五七調・七五調のリズムを味わおうとしている。 ②仮名遣いやリズムの違いを指摘しながら、(進んで)文語詩を読もうとしている。	①範読をもとに言葉のまとまりをとらえたり、歴史的仮名遣いの約束に照らし合わせたりして、詩を(正確に)音読している。 ②文語詩を(味わって)音読し、共通するリズムや言葉について考えている。	①歴史的仮名遣いを(適切に)現代仮名遣いに直している。 ②リズムや言葉の句切り方に気を付け、(味わいながら)音読している。

5 評価と指導の計画(全2時間)

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1 (本時)	○学習のめあてをつかむ。 ○文語のきまりについて学習する。 ○文語詩を音読する。 ○文語詩を比較しながら読み、共通点について考える。	○文語のきまり ・歴史的仮名遣い ○文語詩の共通点 ・リズム(五七調、七五調) ・現代では使わない言葉(古語) ・現代と共通の言葉・連	オの① ・机間指導による観察 アの①② エの①② オの② ・机間指導による観察 ・発表、態度の確認 ・自己評価の内容の考察
2	○リズムを感じられる他の文語詩を探して音読する。	○リズムや文語	アの② エの① オの② ・机間指導による観察 ・発表、態度の確認

6 本時の学習指導（第1／2時）

(1) 目標

- ・意欲的に文語詩を読み、リズムを味わおうとしている。（関心・意欲・態度）
- ・文語調の詩を比較しながら読み、共通点について考えることができる。

（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

(2) 展開

学 習 活 動	学 習 内 容	指導と評価の創意工夫
1 本時の学習のめあてをつかむ。	[学習課題] 文語詩を読み比べ、共通点について考えよう。	・本時の学習のめあてを示す。
2 文語詩を音読する。 ①歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直しながら音読する。 ②比較しながら音読する。	○歴史的仮名遣い ・「さう」→「そう」 ○音読の形態 ・一斉音読 ・一文交代音読 ・ペア音読 ・重ね音読	・小学校の学習を想起させる。 ○歴史的仮名遣いについて確認する。 ○音読の形態に合わせ、教材の提示の仕方についても工夫する。 ○原文のみを拡大印刷して黒板に提示する。（一斉・一文交代音読） ○原文に現代語訳をつけたものを個人に用意する。（ペア・重ね音読）
3 文語詩を比較しながら読み、共通点について考える。	○文語詩の共通点 ・現代では使わない言葉、意味の違う言葉 ・連（まとまり） ・リズム（五七調、七五調）	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価場面1</p> <p>〈具体の評価規準〉 アの①② エの①② オの②</p> <p>〈評価方法〉 課題への取組の様子や態度の観察 〈手立て〉 ・共通点について気付いたことを話し合えるよう支援する。</p> </div>
4 五七調、七五調から受ける印象を考える。	○五七調、七五調から受ける印象 ・五七調は、重々しい感じがする。 力強いイメージがある。 ・七五調は、とても調子が良く聞こえる。 明るい感じがする。	
5 文語詩特有のリズムを意識しながら音読をする。	・連（まとまり） ・リズム（五七調、七五調）	

海水浴 堀口大樹

砂のお菓子をつくりませう
念には念を入れませう

海は遠くを眺めませう
雲が白帆に見えませう

銀の魚がとびませう
太陽を射る矢のやうに

海がみどりの牧場なら
波は羊の群でせう

砂のお菓子をつくりませう
そして羊にやりませう

落葉松 北原白秋

一

からまつの林を過ぎて、
からまつをさびしかりけり。
からまつはさびしかりけり。
たびゆくはさびしかりけり。

二

からまつの出でて、
からまつ入りにぬ。
からまつ入りにぬ。
また細く道はつづけり。

三

からまつ奥の奥も
わが通る道はありけり。
霧雨のかかる道なり。
山風のかよう道なり。

（以下略）

【文語詩の例】

○社会生活に必要な手紙を書くこと(「書くこと」の言語活動例)と関連させた書写の指導例(第2学年)

1 単元名 行書でお礼状を書こう

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【指導事項 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)】	学 習 内 容	単元・教材名 (実施時期)	学習活動と関連する他領域等の指導
・字形を整え、文字の大きさや配列などを考えて書くことができる。 【1年ア】	・楷書の書き方(字形、文字の大きさ、字間や行間の空け方など)	単元 「楷書で書こう」 (1年・6月)	【書くこと】 単元「行事の案内状を書こう」 ・情報の取り上げ方 ・記述や構成の工夫 ・相手意識、目的意識
・行書の基本的な書き方を理解して書くことができる。 【1年イ】	・行書の書き方(点画の連続、省略、丸み、止めや払いの形、筆順の変化など)	単元 「行書で書こうⅠ」 (1年・1月)	

(2) 生徒の実態と本単元の意図

(生徒の実態については略)

学年が上がるにつれ丁寧に書くことに加えて速さも要求される。楷書、行書の字形の違いや書く速さ、毛筆の筆使い、筆圧のかけ方などを確認しながら練習に取り組ませる。行書に調和した平仮名の書き方を指導する上で、文字文化という視点から、行書に関して気付いたことや分かったことを考える活動を取り入れたい。また、毛筆の弾力性や柔軟性という特質を体得させることも必要である。文字による表現のよさを感じさせたい。

本単元は、「書くこと」の言語活動として取り上げられている「社会生活に必要な手紙を書くこと」と関連させた書写の授業である。行事の後お世話になった方への感謝の手紙を書き、それを書写の時間で清書する。文字の大きさや行書に調和した平仮名、全体のバランスなどを考え、硬筆で書く取組として本単元を設定した。

3 単元の目標 ※「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」以外は略

・行書の特徴を生かし、字形を整え配置を考えて手紙を書くことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元の評価規準と学習指導における具体的評価規準 ※単元の評価規準は略 ※()の部分はAの状況、他はBの状況を示す。

ア 国語への関心・意欲・態度	オ 言語についての知識・理解・技能
①伝える相手を意識して、(丁寧に)手紙を書こうとしている。 ②行書の特徴を生かして(意欲的に)お礼の手紙を書こうとしている。	①行書の特徴を理解して、(読みやすく)手紙を書いている。 ②ペンを用いて、(字形を整え、配置に注意しながら)行書でお礼状を書いている。

5 指導と評価の計画(全4時間)

時	主 な 学 習 活 動	学 習 内 容	評価規準・評価方法
1 2	○学習のねらいをつかむ。 ○お礼状の下書きをする。 ※「書くこと」の領域	○伝えたいことの明確化 ○文章構成 ○推敲	アの① ・課題への取組の様子や態度の観察
3	○手書き文字とワープロ文字を比較する。 ○楷書と行書を比較する。	○手書き文字と活字との比較 ・自己表現の手段(形、筆圧、筆脈、濃淡、太さの違い) ○行書の特徴 ・筆脈の連続と点画の変化、連続、省略、字の丸み ・字間、行間の空け方	アの① オの①② ・課題への取組の様子や態度の観察 ・発表、態度の確認
4	○お礼状を清書する。 ※便せん、筆記具の選択 ○字形や配置について、相互評価を行う。	○行書の書き方 ・字形 ・配置 ○相互評価	アの①② オの①② ・課題への取組の様子や態度の観察 ・発表、態度の確認

(5) 国語科における読書活動の充実を図る指導例

○課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介することの指導例（第1学年 C 読むこと 言語活動例ウ）

1 単元名・教材名 私の本の世界 —— 引用文を活用したブックトーク ——

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【指導事項（読むこと）】	学 習 内 容	単元・教材名 ＜実施時期＞	学習活動と関連する他領域等の指導
・本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ることができる。【1年カ】 ・本や文章を読み、自分のものの見方や考え方を広げることができる。【1年オ】	○情報の探し方 ・請求番号の見方 ・カード目録の利用 ・コンピュータ検索 ○情報の選択 ・複数資料による比較検討 ・課題に沿った情報の整理・分析	「○○中図書室探検」 〈1年・4月〉 「情報を選ぶ」 〈1年・6月〉	【話すこと・聞くこと】 ○単元「スピーチの会を開く」 ・必要な材料の収集・選択の方法 ・スピーチメモ 【書くこと】 ○単元「読書記録を書く」 ・本の内容の要点 ・印象的な言葉や場面

(2) 生徒の実態と本単元の意図

本学級の生徒の読書時間を、アンケート調査の結果から分析すると、1日に10分以上読書をする回答した生徒の割合は72%であった。本年度9月から学校全体で取り組んでいる「朝読書」が次第に定着し、読書に親しむ生徒が増えてきている。生徒に読書感想文を書かせたところ、自分が読んだ本の感動を他の生徒にも伝えたいという内容が多く見られた。そこで、さまざまな本を紹介しあうことで選択の幅を広げ生徒たちの読書生活を豊かにする契機としたいと考えた。（中略）

指導に当たっては、読書への関心が低い生徒には教科書の教材を1冊目としてテーマを設定し、2冊目以降を選択できるように、テーマ例やそれに合った本の見つけ方を指導する。引用文を紹介する資料はそれぞれが用意する。（以下略）

3 単元の目標

- ブックトークについて関心を持ち、工夫して伝えようとしている。（関心・意欲・態度）
- テーマに沿った本を読んで、必要な情報をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げることができる。（読むこと）
- 読書を通して、語句についての理解を深め、言葉や表現に注意し、語感を磨くことができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

4 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準 ※単元の評価規準は略

※（ ）の部分はAの状況、他はBの状況を示す

	ア 国語への関心・意欲・態度	ウ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
学習活動における 具体的評価規準	①ブックトークのねらいと方法を知り、（意欲的に）学習を進めようとしている。 ②全体の組立てを考え、収集した情報や自分の思いを効果的に伝えるための構成メモを工夫して（意欲的に）書こうとしている。	①テーマに沿って本を選び、（必要な情報を選び）作品の要旨や主題、その作品の良さを読み取っている。 ②作品に表れているものの見方や考え方を（より深く）理解し、自分のものの見方や考え方を広くしている。 ③自分の読書記録を振り返り、これからの読書（生活の充実）について考えている。	①読書を通じて、新しく出会った（適切な）言葉や表現に注意し、語感を磨こうとしている。

5 指導と評価の計画（全5時間）

時	主 な 学 習 活 動	学 習 内 容	評価規準・評価方法
1	○学習のねらいをつかむ。 ○教師のブックトークを見て、手順・ポイントについて学ぶ。 ○伝えたいテーマを考える。 ○テーマに沿った本を選ぶ。	○ブックトークの手順・ポイント ○テーマの選択・設定の例 ①選んだ3冊の本に合うテーマを決める②テーマを決めて本を選ぶ ○テーマの設定に沿った本の選び方	アの① ・課題への取組の様子や態度の観察 ウの① ・ワークシートの考察 ・課題への取組の様子や態度の観察
2	○紹介する本の内容をまとめたり、引用する部分を選び、記録しておく。	○選択した本の読み込みとメモ作り ・学校図書館の利用の仕方 ・紹介する内容の確認	ウの①②、 オの① ・課題への取組の様子や態度の観察 ・ワークシートの考察
3	○全体の構成を考え、構成メモを書く。	○構成メモの書き方 ○効果的な構成、資料等	アの②、ウの①、オの① 構成メモの考察
4	○本の理解を深めるための引用	○興味を引く引用、理解を助ける	

3・4	文を効果的に使ったプリント作りをする。	引用の資料 (引用文紹介プリントの準備)	・引用文紹介プリントの考察
5 (本時)	○班内でブックトークを行う。 ○班の代表を選び、学級内でブックトークを行う。 ○ブックトークの感想をまとめ、自分の読書生活を振り返る。	○紹介する内容 ○評価用紙の記入の仕方 ○自分の読書傾向と今後の読書計画	アの①、ウの② ・発表の様子や態度の観察 ・評価用紙の考察 ウの③ ・ワークシートの考察


6 本時の学習指導 (第5 / 5時)

(1) 目標

- ・ブックトークの学習に意欲的に取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
- ・収集した情報を整理し全体の構成を考えたブックトークをすることができる。 (読むこと)
- ・聞き手の興味を引くような適切な言葉や表現を選択して、使用することができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(2) 展開

学 習 活 動	学 習 内 容	指導と評価の創意工夫
1 本時の課題を知る。	○本時の学習課題と学習の進め方	・本時の学習の見通しをもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <学習課題> 引用文を活用したブックトークをしよう。 </div>		
2 紹介する内容について確認する。	○紹介する内容 ・テーマ ・書名、著者名、出版社名、登場人物、あらすじ、印象に残った場面や言葉 (本文の引用を含む) とその理由、など	・本を紹介するうえで、必要なことを確認させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> テーマ例：宮沢賢治の世界、心が熱くなる動物感動物語、心が弱くなったときに読む本、ガッツあふれるプロの生き方、人と動物とのきずな、贈り物、きらめく青春、戦争・さまざまな悲しみの姿、海と空の冒険 等 </div>
3 班内でブックトークを行う。 (1) 引用文を紹介するプリントを使い、構成メモをもとに発表する。 (2) 聞き手は評価用紙に記入し、質問や感想を発表する。	○ブックトークの進め方 ・紹介方法の工夫 声の大きさ、話す速さ、言葉の調子 (抑揚・強弱)、間の取り方、視線の位置、 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 引用文を紹介したプリントの例 </div> 	・話し手の留意点を掲示する。 ・印象に残った場面の朗読、好きな言葉、表紙や挿絵の紹介、結末が気になるような紹介、内容に関わるクイズなど、発表の仕方にも工夫をさせたい。 ・班長が司会をして進めさせる。事前にブックトークを行う順番は決めておく。 ・引用文を紹介したプリントには、あらすじと引用文のみを記入しておく。お薦めの理由などは口頭で説明しプリントを読むことがないようにする。 ・話し手の意図がきちんと伝わり、それが理解できたかを評価用紙に記入させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">評価場面</p> <p><具体の評価規準> アの①、アの②、イの②</p> <p><評価方法> ・机間指導による発表の様子を観察 ・構成メモと評価用紙による考察</p> <p><手立て> ・構成や工夫されていた点など発表の良い点を具体的に示し参考にさせる。 ・ブックトークを通して、本の世界を味わう楽しさに気付かせ、読書への意欲につなげていく。</p> </div>
4 代表によるブックトークをクラス全体で行う。	○聞く視点の明確化	
5 ブックトークへの取組と自分の読書について振り返る。	○ブックトークを行った感想 ○自分が読んできた本の傾向の把握 ・今後読んでみたい本	・さまざまなジャンル、内容、作者の本を読み、今後の読書生活を豊かにしていくことを伝える。